

ふくしま から 時風の便り

こーぷトピックス No.7

2024/4/24



みやぎ生協・コープふくしま

発行：みやぎ生協・コープふくしま
ふくしま県本部 024-557-1125
福島県福島市森合字清水 7

福島からふくしまの今を、話題を、出来事を 時風の便りにのせて・・・。

＊時風（ときかぜ）：季節、時刻に合わせて吹く風・ちょうど良い、ベストな時に吹く風

東日本大震災から 13 年 東京電力福島第一原発事故 廃炉、復興の状況

除染土壌の行方～中間貯蔵施設

●除染で発生した土壌や廃棄物を貯蔵する『中間貯蔵施設』は、東京電力福島第一原発の敷地をぐるりと囲むようなかたちで福島県双葉町、大熊町に設置されています。



中間貯蔵施設は福島第1原発を囲むように整備され、敷地面積は約1600ヘクタール。施設には2015（平成27）年の搬入開始から2023年11月末までに除染土壌など1373万立方メートルが運ばれました。

中間貯蔵施設（大熊町、双葉町）に保管されている除染土壌などについては、中間貯蔵・環境安全事業株式会社法で「国は、中間貯蔵開始後30年以内に、福島県外で最終処分を完了するために必要な措置を講ずるものとする」と定められています。

一方、福島県外の除染土壌や廃棄物に関しては、各都道府県の区域内で処分を進めるとされています。東京電力福島第1原発事故で大気中に放出された放射性セシウムは福島県外にも広範囲に飛散し、福島県以外の7県（岩手、宮城、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉）でも除染を実施しました。福島県以外の7県では町内の仮置き場や学校、公園、個人宅の敷地などに除染土壌や廃棄物が保管されたままです。原発事故発生から13年が経過した現在も処分方法については示されていません。除染土壌を最終的に埋め立て処分する際も、市町村は国が策定する方法に従う必要がありますが、肝心の処分の規則は定まっていない現状です。

2024/4/4 福島民報



2024/4.4 福島民報 霞む最終処分③ 第5部

福島県外の除染土壌 東北・関東に広く点在 処分基準 早急に示せ

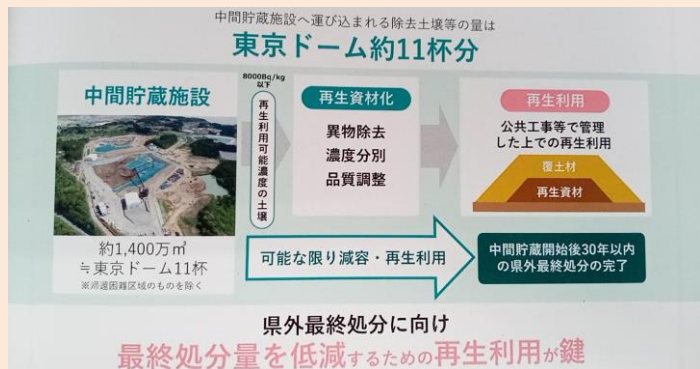
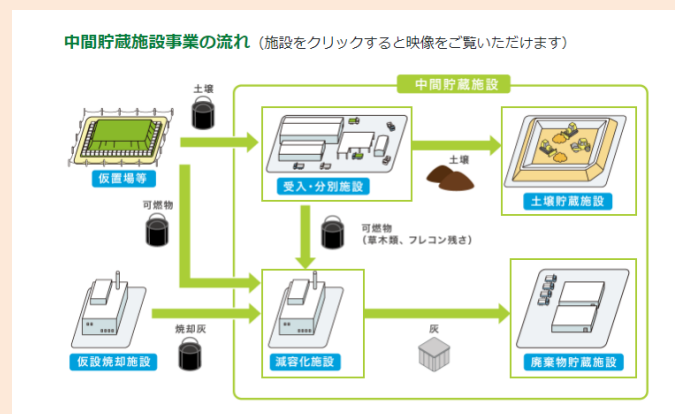
東京電力福島第1原発事故で大気中に放出された放射性セシウムは福島県外にも広範囲に飛散した。福島県以外で除染を実施したのは岩手、宮城、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉の7県。民家や学校、公園などの面的除染は2016年度までに完了した。福島県外の除染により発生した土壌を保管しているのは2023年3月現在、7県の53市町村で、保管量は計33万198立方メートル。保管場所の数は2万8728カ所に上る。保管場所のうち、約9割を占めるのは個人宅の敷地内などの民有地だ。福島県外で出た除染土壌は除染が行われた各県で処理するように、放射性物質汚染対処特措法に基づく基本方針で定められている。除染土壌を最終的に埋め立て処分する際も、市町村は国が策定する方法に従う必要があるが、肝心の処分の規則は定まっていない。環境省は今年度中に県外にある除染土壌の処分基準を策定する方針だ。一方、福島県内の除染土壌の再生利用や、減容化技術を踏まえた最終処分の基準も年度内に決定する。同時並行で進めることでそれぞれの基準の整合性を図る。

中間貯蔵施設

1, 600ヘクタールの敷地内にはさまざまな施設が整備されており、区域内の見学も可能です。

<受入・分別>

福島県内各地の仮置き場等から輸送された除去土壌は受入・分別施設でフレコンバック（大型土のう袋）を破り、土壌、可燃物・石などに分別されます。分別後は土壌貯蔵施設（土壌）、仮設焼却施設（可燃物）に運ばれます。



<土壌貯蔵施設>

土壌貯蔵施設の底面と堰堤は遮水シートで覆われており、貯蔵している土壌に触れた水（浸出水）が外部に漏れないような構造になっています。地下5m掘り下げたところに除去土壌を埋めて、地上10mまで盛土します。さながら古墳のような土壌施設です。貯蔵している土壌が飛散ないように飛散防止材の散布を行い、雨水が入らないように遮水シート等で上部を被覆します。浸出水は水処理施設で処理し、放射能濃度を測定して異常がないことを確認してから放流します。

<再生利用>

除去土壌は中間貯蔵開始（2015年3月）後、30年以内に福島県外で最終処分することが法律で定められています。最終処分の実現に向けては、処分量を減らすことが重要です。そのため環境省では、土壌を再生資材として利用するための技術的・制度的な検討を、実証事業等を通じて進めています。道路盛土実証事業では除去土壌の飛散・流出防止や、盛土の安定性、工事のし易さなどを検証しています。



◇中間貯蔵施設を見学してきました

情報センター Tel.0240-25-8377

双葉郡大熊町小入野字向畑 256

中間貯蔵工事情報センター内で説明を受けた後、マイクロバスに乗って中間貯蔵施設区域内へ向かいます。

中間貯蔵施設は帰還困難区域に立地しているため、帰還困難区域一時立ち入りにあたり、事前申請、本人確認が必須です。

中間貯蔵施設として整備された広大な区域内にはそれぞれ役割を持った用地が広がり、受入・分別施設や焼却施設などの建物が並ぶ一方で、13年間手つかずの状態に残る民家も散見されます。

見学ルートでは降車ポイントがいくつかあり、線量測定もさせていただきました。8,000ベクレル/kgの土壌が埋め立てられた土壌施設の放射線量は約0.2μSv/hでした。

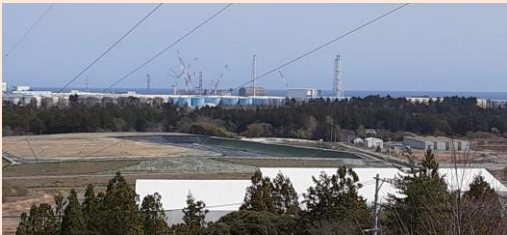


■再利用が大きな課題である道路盛土実証事業では、平均6,400Bq/kgの除去土壌を使用した、一般的な地方の幹線道路を想定した盛土道路（約180m）が見ることができます。



■サンライトおおくまからは、土壌貯蔵施設の奥に東京電力福島第一原子力発電所を望むことができました。

特別養護老人ホーム「サンライトおおくま」は東京電力福島第一原発から2kmの距離に位置し、中間貯蔵施設内に残る震災遺構です。駐車場に放置された車はタイヤの空気が抜け、窓の外からは13年前のまま残されたテーブルや車いすの様子を見ることができます。



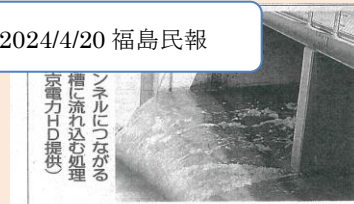
中間貯蔵施設区域内に残る津波、地震被害の建物

2024/4.20 福島民報 第一原発処理水 今年度初回 放出を開始

東京電力は19日午前11時14分、福島第一原発処理水の今年度初回の放出を開始した。17日程度かけ約7800トンを出す。

今年度はタンク約54基分に当たる計5万4600トンを7回に分けて放出する。原発構内には、約133万トンの処理水がタンク約千基に保管されている。

2024/4/20 福島民報



2024/4/20 福島民報

第1原発処理水 今年度初回 放出を開始

東京電力は19日午前11時14分、福島第一原発処理水の今年度初回の放出を開始した。17日程度かけ約7800トンを出す。

今年度はタンク約54基分に当たる計5万4600トンを7回に分けて放出する。原発構内には、約133万トンの処理水がタンク約千基に保管されている。

【海産物】◇水産庁は迅速分析・ヒラメ2検体(18日採取)一検出下限値(1kg当たり8.75~8.07%)未満

福島第一原発 19日の状況

原子炉建屋内の滞留水の移送作業を継続した。

【中国「断固反対」】

【北京共同】中国外務省の林劍閣報道局長は19日の記者会見で、東京電力福島第一原発処理水の5回目の海洋放出が同日始まったことについて「日本は安全に対する利害関係国の懸念をいまだに解決しておらず、断固として反対する」と述べた。

林氏は「核汚染水を放出して全世界にリスクを転嫁するのは極めて無責任だ」と批判した。



広野町 浜通り双葉郡に位置し、南はいわき市に隣接太平洋に面した温暖な地。サッカーの聖地、ナショナルトレーニングセンター「**Jヴィレッジ**」の立地町でもある。

eriko のつぶやき ……ふくしま 美味しい物～広野町産バナナ「綺麗」



東日本大震災・原発事故により全民避難となった広野町で、バナナの栽培が始まっています。

広野振興公社が手掛けるトロピカルフルーツミュージアム。ハウス内はバナナの芳醇な香りが漂い、東北の地で力強く育っているバナナを観察することができます。

収穫後は廃棄物になってしまうバナナの茎を活用した和紙作りもおこなっていて、広野町の子もたちの卒業証書にはバナナの樹皮で作った和紙が使用されています。

広野町産「綺麗」バナナは濃厚な果実の甘さ、皮の食感、バナナそのものが立派なデザートだと感じるおいしさです。無農薬なので安心して皮ごと食べられます。

たくさんの思いがこもった広野町産「綺麗バナナ」、たくさんの方に召し上がっていただきたいです♪

